

# 高校生における学校適応感に関する研究 ～部活動の加入状況に着目して～

上原 雄也 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 谷川 尚己

キーワード (部活動 学校生活 適応感)

## I. 緒言

部活動は正規のカリキュラムではなく、課外活動 (extracurricular activity) として位置づけられている。部活動への参加は学校生活へ大きな影響を与え、学校全体に対するポジティブな意識にもつながることが示されている。一方、岡田<sup>1, 2)</sup>は、学校生活の様々な諸領域に関して、「校則については、運動部の男子の得点が低くなっていたことから、運動部に所属する男子は、学校の規範から逸脱的な傾向を示す可能性の高いことが示唆された」とも発表している。

そこで、本研究では部活動所属者の運動部と文化部を区別し、部活動所属者と無所属者の学校適応感の違いを明らかにするとともに、部活動を行っている学校生活にポジティブな影響だけが働くのか、ネガティブな影響はないのかを明らかにする。

## II. 研究方法

大阪府公立高校 1～3 年生 (男子 145 名 女子 186 名 計 331 名) に学校適応感、学校不適応感に対する質問紙調査を HR の時間に一斉形式で実施した。

## III. 結果と考察

学校適応感の項目では、無所属よりも部活動所属者の値が高くなっており、学校生活にポジティブな影響を及ぼすという結果が得られた。さらに、「無気力性」の項目でも、部活動所属者よりも無所属の値が高くなっていたことから部活動に所属している方が良い影響を与えるということがいえる。

無所属者は「友人」「教師」「上下関係」の項目で値が低く、「無気力性」の項目は値が高く示された。これは、部活動に所属していないことでコミュニケーションをとる機会が少ないことが関係していると考えられる。

男子よりも女子の方が「友人」「クラス」「教師」「上下関係」に関する質問項目で共通して高い値を示し、女子の方がコミュニケーション能力に優れているといえるだろう。

## IV. まとめ

今回の研究の目的であった、「部活動に参加していると学校生活にマイナスな影響はないのか」ということについて、今回の研究ではマイナスの影響はみられなく、「部活動の参加は学校生活にポジティブな影響を及ぼす」という結果が得られた。部活動は児童生徒の健全な心身の育成、自主性・協調性・社会性などを育成し、児童生徒の学校適応感を促進させるものだと考えられる。

今後、新たな項目を追加し、調査することや、調査校を増やすことで、より幅広い研究していきたいと考えている。

## 参考文献

- 1) 岡田有司 (2007) : 部活動へ所属している生徒としていない生徒の学校適応 (1) 日本心理学会総会発表論文集 (50) 312, 2008-09
- 2) 岡田有司 (2008) : 部活動へ所属している生徒としていない生徒の学校適応 (2) 日本心理学会総会発表論文集 (49) 21, 2007-08